

震災復興
中部を
元気に!

美女と野獣

—ヨーロッパ民話より—

～あらすじ～

むかしむかし、ある国の王子様は魔女に呪いをかけられ、野獣の姿に変えられてしまいました。「その姿で誰かに愛されることが出来たら、全て元に戻してやろう。ただし、この薔薇の花びらが全部散るまでにだ」と言い残し、魔女は一本の薔薇の枝を渡して消えてしまいました。

途方に暮れる王子。そこへ、街の娘マリーが王子のいる森へ迷い込んできました。マリーは従者に呪いの事を聞き、「王子様を愛してくれ」と頼まれますが、急な出来事にどうしていいかわかりません。せめて病気の父親に薬草を届けさせてくれとマリーは頼みましたが、早く元の姿に戻りたい従者は絶対に帰してはいけないと王子に迫ります。しかし、心優しい王子はマリーを帰してあげました。

家へ帰ったマリーは父親に薬草を飲ませ、森であった出来事を話します。マリーは自分を帰すために従者と争ってケガをした王子が心配になり、彼の元へと戻ります。しかし、父親は娘が騙されていると思い、武器を持ちマリーの後を追いかけるのですが…。

果たして王子は薔薇の花びらが散るまでに愛されることが出来るのでしょうか？

そして王子とマリーの運命は…!?



マリー



野獣の王子様

中部地震復興応援イベント

入場
無料

主催 倉吉ロータリークラブ

後援 倉吉市社会福祉協議会・倉吉市民生児童委員協議会
倉吉市教育委員会・三朝町教育委員会
湯梨浜町教育委員会・北栄町教育委員会
琴浦町教育委員会・新日本海新聞社

お問い合わせ

倉吉ロータリークラブ

倉吉市大正町1075-4ビル2F TEL 22-1154 FAX 22-1150

平成30年2月10日(土)
倉吉未来中心大ホール

- 第1部 公演 【美女と野獣】 2幕
13時00分開場(開演13時30分)
- 第2部 公演 【峠を越えて】 1幕
17時30分開場(開演18時00分)

観劇無料チケット取り扱い先

児童生徒の通っている小学校・中学校
(児童生徒・保護者のみ)

- 倉吉未来中心(事務局) TEL 23-5390
- 三朝町総合文化ホール TEL 43-3512
- 北栄町教育委員会 教育総務課 TEL 37-5870
- 琴浦町教育委員会 TEL 52-1111
- 湯梨浜町教育委員会(代表) TEL 35-5362
- ピーワイヨシダ TEL 23-1611

神原政常 作
「川上観音」より
木村進次 演出

一燈園禊立 すわらじ劇園 
平成29年度上演作品

峠を越えて

一幕



目が不自由な夫と、耳が不自由な妻の老夫婦に起こる
不思議な出来事。
幸福とは何か、真実とは何かを描き出す、心温まる物語。

みなさまへ

倉吉ロータリークラブでは、昨年発生いたしました鳥取県中部地震からの復興に向けて、心身共に打撃と影響を被られた全ての方々にいつもの活気あふれる英気を取り戻していただきたく、京都を本拠地として全国に演劇活動を展開している「すわらじ劇園」の倉吉公演を開催いたします。

これも偏に神戸ロータリークラブ・姫路ロータリークラブ・鳥取ロータリークラブ・倉敷ロータリークラブの各クラブよりの絶大なる支援のお陰で有ると謹んで感謝申し上げます。皆様には、生の劇を観劇していただく事により活力を見つけ出して、今後の暮らしに役立てていただきたいと切に願っております。

主催者 倉吉ロータリークラブ

～あらすじ～

むかしむかし或るところに…

目の見えない和佐一と、耳の聞こえないおとさの老夫婦がいました。信心深いおとさは、何とかして和佐一の目が見えますようにと、村はずれの川上観音様に二十一日間の願掛けをして熱心に祈りました。

一方和佐一の方は「いくらお祈りしても、わしの目が開くことなんかあるかい」とうそぶいて、知らん顔をしています。

今日は満願の日です。おとさは「さ、いよいよ今夜こそ」と何時にもまして心を込めて祈りました。

すると突然神々しい観音様のお姿が浮かんで来て、「おとさの熱心な願い、今宵叶えてつかわそおー」とお声が聞こえてきたのです。

狂喜乱舞するおとさ…、そんな事信じられるかい、と馬鹿にする和佐一…ところが…

目の見える人、見えない人、耳の聞こえる人、聞こえない人。人生様々、互いに助け合うのか、いがみ合うのか。

山のかなたの空遠く 幸住むと人の云う…
峠を越えたその先には。



劇団すわらじ劇園

〒607-8025 京都市山科区四ノ宮柳山町7-9
TEL(075)593-9537 FAX(075)595-7883

すわらじとは変わった名前ですが、その語源はインドの言葉です。マハトマ・ガンジーがインドの独立運動を指導したときの名称で、意味は「完全・自治独立」「完全・自律」という意味のサンスクリット（梵語）です。

ガンジーの独立運動は、イギリスからインドの独立を勝ち取る為には、先ずインドの人たち自身が独立に値する国民にならなければいけないと諭され、暴力で勝ち取ったものは必ず暴力によって奪い取られる、と絶対非暴力の運動を繰り広げられたのです。劇団の創立当時（1930年頃）この運動が世界の注目を浴び、その思想と実践に心打たれた創立者たちが、劇団の名称に頂いたものなのです。

又劇団ではなく、劇園と称しているのは、歌舞伎の世界を「梨園」と言い、又劇団の母体「一燈園」に因んで「園」にしたものです。